

「持続可能な米づくりの確立」の進捗状況

農畜産課

○令和2年度末の進捗状況

(1) 主食用米の生産面積は、従前からの農地中間管理事業をベースとした取組により、6,495haとなり全体の39%が担い手に集積されました。

(2) 低コスト生産の実現については、国や県の補助事業を活用した低コスト機械・施設の導入を働きかけた結果、中山間地域の畦畔管理の省力化のためのリモコン草刈機、高密度で播種・育苗する技術の導入が進みました。

(3) 最もコスト削減効果の高い多収穫米の普及・拡大に向けて、3月18日に農業者14名が参加して「島根県多収穫米推進協議会」が立ち上げられ、県と二人三脚で、栽培技術の確立や安定的な販路の確保に取り組む体制を構築しました。

○主食用米の担い手シェア

	H30年	R1年	R2年
農地中間管理事業集積面積	410	407	448
主食用米に換算(*70%)	287	285	314
担い手の主食用米生産面積	5,896	6,181	6,495
主食用米の担い手シェア	34%	37%	39%

○低コスト技術導入経営体数

	導入見込み
リモコン草刈機	76
高密度播種	63
多収穫米	34

